

# 『一心千里』

## 走って見れば、

## 見えてくる

永田 隆一



第4回

日本は、税収四〇兆円

弱であります。九五兆円の予算を組もうとしております。「一円たりとも減額はできない」と副大臣が、真顔で話しております。しかし、今は非常事態であり、必要であると説明されますと、なんとなくそうかもしれないと思ってしまう。金額が大きすぎて理解できないのかも知れません。お小遣いが月額四万円、ビジネスマンが、毎月九万五〇〇〇円の出費を続けているとしたら、やはり近い将来の破綻が、容易に想像できてしまいます。

《変わるゲームのルール》

私は、様々な経済事象の変化を「ゲームのルール」が変わってしまったのだと考えるようにしています。それは、数々の歴史が証明しています。たとえば、「同一労働同一賃金」などは、スローガ

ンはとても響きのよい言葉であります。グロー

バル経済という補助線を引き、沿岸部は除く中国やベトナムの労働力を考えますと、大きな矛盾が生じてしまいます。グロ一バルというルールが追加されたのです。

に、大きなダウンターン

がくることを繰り返す可能性がります。日本の半導体企業従事者数は一五万人、装置・材料を含めた半導体関連企業従事者数は二五万人。合わせて四〇万人。一〇万人が余剰との厳し

# 止まらない価格破壊

## 矛先を自分に向ける

二〇〇七年の半導体の世界市場は、三〇兆円でありましたが、〇九年は二〇兆円を下回りそう

です。しかし、二、三年で三〇兆円近くまで戻る可能性も充分にあると考えますが、問題は、利益率です。いったん大きく下げた価格の戻りはどうしても遅延を生じます。そうしているうち

い指摘を耳にいたしません。道は二つに一つ。一〇万人が付加価値を出せる産業に転ずるか、一律

給料を二五%減額するかです。韓国・台湾という戦略的にすぐれた行動力のあるプレーヤーが力をつけて、ルールが変わったのであります。《技術は調達するもの》日本の高度成長時代か

ら、一九八〇年代までは、一九七八年のオイルショックや、一九八五年のプラザ合意以降の円高と大きなゲームのルールが変わったものの、日本は、それなりに元気であったように感じます。

しかし、韓国・台湾・中国は、「技術は、外から調達するもの」と割り切って、戦略的に参入市場をターゲットにして集中して特化しました。また、政府のリーダーシップも素晴らしいも

《矛先を自分に》

ゲームのルールが変わったのであれば、もちろんプレーヤーは、行動を変えなければ勝てません。ところが、「なぜ、ルールを変えたのですか、断じて納得できません」とか、「大丈夫だ、すぐ

《価格破壊》

弊社のある新宿区神楽坂のお弁当屋さんのお弁当は、四〇〇円前後です。ランチも安いところは、定食で五〇〇円。雰囲気のないバーで飲む並々と注がれたオールドパーが五〇〇円。居酒屋の生ビールが大ジョッキで、三〇〇円(きつと発泡酒に違いないと思います)。ユニクロのジーンズが、一〇〇〇円を切る。外資系に買収された、QBハウス(理髪店)も一〇〇〇円。

のがありました。先日亡くなられた金大中元大統領は、韓国にサムスン・現代・LGと三社の半導体メーカーは、やがて過当競争に陥るから、LGさんは、半導体製造から撤退して、デジタル家電に特化してください、と指導力を発揮しました。LGの経営幹部の反発はとも大きかったそう

に、ルールは昔に戻るよ」「俺がルールだ。心配するな」としか聞かれないお話をされる方が居られます。これは、大きな問題です。組織内の方々が、具体的な目的意識を持つことができなくなり、未来へ夢を描くことができなくなるからです。謙虚にゲームのルールが変わったことを理解して、自ら

五年前に三億円で購入した、半導体製造装置が、三〇万円で売りに出たりしております。これも、ルールが変わったのです。しかし、奥様方の化粧品や子供たちのお小遣いは、上昇の一途であります。これも、家庭内における立ち位置というルールが気付かぬうちに変わっていたのです。(毎月掲載)